

令和2年9月8日

令和2年度前期「授業公開及び参観」実施状況報告

FD委員会付 授業評価・授業公開実施部会

1 実施結果

(1) 実施期間 令和2年7月20日(月)～8月7日(金)

・実施要項(令和2年6月12日施行)に沿って実施

	令和2年度前期 (2020年度前期)	平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期)	備考(対比)
実施期間	前:7/20(月)～ 8/7(金)	前:7/1(月)～7/19(金) 後:11/11(月)～11/29(金)	
各学部等への実践 教員選定依頼日	前:6/24(水)	前:6/6(木) 後:9/19(木)	
報告期限(当初)	前:7/3(金)	前:6/14(金) 後:10/4(金)	
参観教員申込期限 (当初)	前:7/13(月)	前:6/26(水) 後:11/1(金)	

(2)「授業公開及び参観」実施授業、及び参観教員数 8頁参照

	令和2年度前期 (2020年度前期)	平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期)	備考(対比)
授業公開科目数	美術・院 (前:4) 音楽・院 (前:5) 全学 (前:2)	美術・院 合計11 (前:6 後:5) 音楽・院 合計10 (前:3 後:7) 全学 合計2 (前:1 後:1)	
授業公開した教員 数の割合(年間) ※公開者数は実人数	15.1%(11/73) 美術 12.1%(4/33) 音楽 17.2%(5/29) 全学 25.0%(2/8) 研究所 0%(0/3)	32.9%(23/70) 美術 35.5%(11/31) 音楽 35.7%(10/28) 全学 25.0%(2/8) 研究所 0%(0/3)	教授、准教授、講師、助教を対象

参観した教員数の割合（年間） ※参観者数は実人数	41.1% (30/73) 美術 39.4% (13/33) 音楽 34.5% (10/29) 全学 62.5% (5/8) 研究所 66.7% (2/3)	50.0% (35/70) 美術 67.7% (21/31) 音楽 28.6% (8/28) 全学 62.5% (5/8) 研究所 33.3% (1/3)	教授、准教授、講師、助教を対象
(内訳)		(前期) 35.7% (25/70) 美術 48.4% (15/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3)	
		(後期) 34.3% (24/70) 美術 45.2% (14/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3)	

(3) 「実践レポート」及び「参観レポート」について 9頁参照

2 総括

前年度「授業公開」と同様約3週間にわたって実施した。今期は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため原則として遠隔授業となったことから、授業公開科目も遠隔授業に限定した。選定された科目数は昨年度後期よりも2科目減り11科目であった。実践教員の数は全体の15.1%となり、後期「授業公開及び参観」を実施することで「年間を通して3分の1」程度とする目標の達成が見込まれる。1科目以上参観した教員数は、本学教員73人中30人で、全体に対する参観率は41.1%となり、昨年度後期(34.3%)よりも増加した。

一方で、美術工芸学部の「芸術学演習Ⅰ・Ⅱ」及び音楽学部の「ピアノ実技Ⅶ」は参観人数がゼロであった。あわせて、専攻によって参観率にばらつきがあることも分かった。全体の参観率を向上させると同時に、参観人数がゼロとなった科目についてはその要因を検証する必要がある。

以上の結果およびレポートの内容を踏まえて、部会では以下の意見が上がった。

(1) 参観教員数について

遠隔授業の対応のため、教員が例年以上に過密な業務やスケジュールに追われており、参観したくとも時間がとれないという状況があった。一方で、移動時間がなくなって参観しやすくなったという意見も聞かれた。明確な理由はわからないものの、音楽学部では参観

教員の割合が昨年度より増加しており、遠隔授業となったことで参観が促された可能性もある。

(2) 遠隔授業の公開及び参観について

他の教員がどのような遠隔授業をしているのかは、非常に見えにくいところがある。今期実際に参観した教員からは、遠隔授業のやり方が非常に参考になったという意見が多く聞かれた。一方で、遠隔授業をどうやって公開したらよいのか、どのように意見交換を進めたらよいのか、戸惑いの声もあった。遠隔授業の多様性から一律のやり方を定めることは効果的ではないと思われるが、様々な方法を例示するなどして、授業公開及び参観の質を高めていくことが求められる。

3 課題と改善案

- (1) 前期は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため面接授業を公開対象から除外したが、実技系の科目は遠隔授業の公開が難しい場合がある。後期は、もし感染状況が落ち着いていれば、3つの密を回避し感染対策を徹底した上で、面接授業も公開できるようにしていきたい。面接授業15分以内の時間制限が続いている場合は、オンラインとオフラインをどのように組み合わせるか、授業の工夫や難しさを共有することも有効だと思われる。
- (2) 参観人数がゼロとなった科目の中には他学部の教授会と日程がかぶっているケースがあったため、公開日を設定する際に避けたほうがよい日程をアナウンスしておく必要がある
- (3) オンデマンド型の遠隔授業は時間割にとらわれない受講が可能であり、参観する場合も1週間程度の幅をもたせて参観してもらうことが可能である。授業公開科目の一覧に、いつまで参観可能かも記載したほうがよい。
- (4) 実践教員から、事前に参観教員に対してアプリの説明や授業の全体像を伝える機会があるとよいという指摘があった。遠隔授業を公開する場合は、授業の実施方法が多様で、面接授業を前提として書かれたシラバスから内容が変更される場合もあることから、事前に実践教員と参観教員の間で前提を共有しておくことが大切である。既存のスキーム図でも、遠隔授業への参加方法、意見交換の日時や方法、公開する授業のシラバスの写しや資料等を、事前に参観教員に送付するよう指示しているが、メール・チャット・会議アプリなど利用して連絡してもよいことを明示したほうがよい。
- (5) 実践教員の能力向上につながるよう、公開や意見交換の方法を改善していく必要がある。初見での外れなコメントをもらっても、なかなか授業改善には結びつかない。授業のことをよく理解した上で有益な助言をしてもらうため、専攻主任やFD委員・授業公開実施部会メンバー等に、あまり大きな負担にならない範囲で参観を呼びかけるのはどうか。意見交換の際に司会をしてもらうことも、実践教員の負担軽減につながると思われる。また、気心の知れた同じ専攻の教員から率直な意見をもらうことも役に立つ。授業の悩みを互いに相談できる場になってもよい。芸術大学にふさわしい授業公開の及び参観の方法については、引き続き検討していく必要がある。
- (6) 今期はこれまでと同じ参観レポートの様式を使用したがる、遠隔授業にはあてはまらない点がある(例：授業での声は全体に行き渡りましたか)。文言の修正が必要である。

4 事業運営に係る特記事項

- ・教員からの参観申込は、当初7月13日の期限を設けたが、参観したい授業科目への直近（前々日）申込に対応した。
- ・両学部教授会にて、公開科目の周知及び参観呼びかけを行った。
- ・公開の前日までに学科室に事前連絡して、円滑な実施に対応した。
- ・実施報告を整えるように各様式を Excel ファイルで提供した。

以上